

『新病院長に聞く』 本橋 雅壽 病院長

多くの診療科のある総合病院的な機能の強みを活かす

新院長に聞く

道南地域で唯一の総合周産期母子医療センターや  
全国トップクラスの実績を持つ脊椎センターが高評価

函館中央病院院長  
本橋 雅壽

函

函館中央病院(函館市本町)の新しいトップとして、昨年12月1日に就任したのが本橋雅壽病院長だ。日本心臓血管外科専門医および修練指導医である本橋病院長は、同学会の国際会員のほか、日本外科学会専門医・指導医などの資格を有し、学会活動では日本胸部外科学会の評議員などを務めている。

昭和58年北海道大学医学部医学科卒業後は同大学医学部外科学第二講座に入局し、北大病院および道内関連施設にて勤務する。平成5年にはフランス・アンリ・モンドール病院・研究所に留学。帰国後は函館中央病院心臓血管外科科長やN.T.T東日本札幌病院心臓血管外科科長を歴任。20年函館中央病院診療部長兼ICUセンター長、

21年には副院長に就任した。同病院の心臓血管外科は平成6年の開設以来、北海道大学循環器外科のバックアップを受け、道南における心臓血管外科領域の基幹施設として診療を行ってきた。虚血性心疾患に対してはバイパス手術に加えて積極的に弁形成術・左室形成術を併せて行い、術後のQOL・遠隔成績を高める治療を行っている。

「胸部大動脈瘤や解離性大動脈瘤手術は、現代でもリスクの高い手術の一つですが、診断から手術まで一貫して当科で担当、破裂などの緊急手術にも対応してきました」。大動脈基部拡張症に対しても大動脈弁を人工弁に置換する大動脈基部置換術や自己弁温存手術などで良好な成績をおさめてきた。

本橋病院長は「手術は低侵襲で確実な治療効果、QOLの回復が早い方法を選択し、実績を重ねてきました」と語る。

地域医療の先駆的な役割と医療の慈善事業に取り組み

昭和5年函館慈恵院の実費診療所を病院に改め、名称を中央病院として病床数24床でスタート。戦前には市内の他の医療機関に先駆けた渡島管内の巡回診療の実施や函館市の歳末無料診療への協力、医師や看護師を市内小学校に派遣して診療に当たるなど、地域医療の先駆的な役割と医療の慈善事業に熱心に取り組んできた。また昭和44年には道南でいち早く「成人病検診車」を導入するなど、函館

市内および近郊の町村を含む道南全域の住民検診を開始している。病院建物の増改築では、昭和48年の中央棟を完成後は昭和54年の北棟と平成2年の東棟、平成9年には立体駐車場を完成させ、平成12年の南棟増築と同時に院内改修も進め、アメニティの向上と診療機能の充実を追求してきた。

「2020年に創立90周年を迎える歴史と伝統ある病院を任せられる責任の重さに改めて身の引き締まる思いです。当院は『心ある医療』を基本理念とし、その理念の通りに病める人の立場に立ち、かけがえない命と健康を第一に尊重する医療を提供してきました」。同病院は道南地域で唯一となる総合周産期母子医療センターや全国でもトップクラスの実績を持つ

脊椎センターが高い評価を受けている。「当院の昨年の分娩数は625件で、地域で出生した未熟児の大部分を受け入れていた。心臓血管外科では平成15年より先天性心疾患に対する手術を実施していますが、道南圏の先天性心疾患はまず当院小児科に集まることもあり、心臓血管外科で治療し、当院小児科にて術後のフォローを行っている」と、道南圏の先天性心疾患の患者を治療できることは、患者や家族の負担軽減に大きく貢献している。

急性期病院としては市内の2次救急輪番を担うほか、がん診療に

についても実績が評価され、平成26年北海道がん診療連携指定病院の指定を受けている。「当院は総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制を持つ病院です。得意分野の小児・周産期医療に力を入れていくことはもちろんですが、がん医療や救急医療など、多くの診療科のある総合病院的な機能を有している強みを活かした診療を継続していきます」。

北大との協力関係で診療体制の充実も前進

同病院では医師の派遣について

は北海道大学から派遣を受けている。「北大からの派遣が全診療科に及ぶのは極めて稀なケースですが、北大との協力関係による内科系医師の増員など診療体制の充実も大きく前進しています。内科の強化については、総合診療科を目的とした取り組みの一貫として、専門医機構の総合診療専門研修プログラムもスタートさせます」。これまで医学部の臨床実習は、大学病院を中心に行われていたが、一般病院で診療される一般的な疾患を学ぶ必要もある。同病院では北大医学部医学科の依頼により、医学部の臨床実習を受け入れ、実習を

行っている。「地域の皆さんに安心・安全なチーム医療を提供することを基本方針とし、そのためには地域の医療機関との連携はもろろんのこと行政とも連携し、職員が安心して働ける職場環境づくりと人材育成に力を入れている」と本橋病院長は強調する。「老朽化した中央棟の改築など課題もありますが、当院が出来ること、やるべきことが何なのかを考え、「函館中央病院なら間違いない」と「函館中央病院を受診してよかった」と言っているように職員一丸となって邁進していきます」。



もとはし まさとし  
昭和58年北海道大学医学部医学科卒業。  
同年北海道大学医学部外科学第二講座入局。  
北大病院および道内関連施設にて勤務。  
平成5年フランス・アンリ・モンドール病院・研究所に留学。  
平成7年函館中央病院心臓血管外科科長。  
平成17年N.T.T東日本札幌病院心臓血管外科科長。  
平成19年函館中央病院心臓血管外科科長。  
平成20年1月同病院診療部長、同年4月同病院診療部長兼ICUセンター長。  
平成21年同病院副院長。  
平成29年12月同病院病院長として現在に至る。

日本心臓血管外科学会国際会員  
心臓血管外科専門医・修練指導医  
日本胸部外科学会評議員  
日本外科学会専門医・指導医  
医学博士